

【木村先生の新著の紹介】

『いのちのバイオエシックス —環境・こども・生死の決断— 』

(ヒューマンサイエンスシリーズ 11)

コロナ社 (2008/07)

木村利人、掛江直子、河原直人 編著  
早稲田大学人間総合研究センター 監修

<概要> 科学技術の発展とともに、バイオエシックスはいつも新しい課題に直面し、挑戦し続けている。このバイオエシックスの軌跡を「環境・自然」、「こどもの医療」、「生死の決断」等、私たちのいのちに関わる重要なテーマに焦点をあてて検討、考察し、問題解決への提言を行った。

<目次>

序 バイオエシックスの歴史と展望 掛江直子 河原直人

第1部 環境・自然を考える

- 1 環境問題における思想の形成—田中正造の場合 牛山積
- 2 「自然」の破壊を避けるため—いのちの公共政策とバイオテクノロジー 木村利人

第2部 こどもの医療を考える

- 1 新生児医療における生命倫理—特に予後不良の児への対応 仁志田博司
- 2 小児医療とインフォームド・コンセント 森川功
- 3 小児医療における倫理—真実告知とこどもの権利 掛江直子
- 4 こどもの脳死臓器移植の方向性を考える 河原直人
- 5 「子を持つ自由」とは何か—生殖補助医療利用の法的規制をめぐる 岩志和一郎

第3部 生死の決断を考える

- 1 死についての自己決定とは—事前指示が医師介助自殺を含むとき 土田友章
- 2 日本において安楽死は可能か—刑法の立場から 曾根威彦
- 3 医師による自殺介助は可能か—北米における裁判の動向 富田清美 宮下毅 (補筆)
- 4 臓器の提供と脳死の自己決定の問題性—臓器移植法と臓器の摘出を中心として 曾根威彦
- 5 脳死と臓器移植をめぐる基本的な問題—日米比較的生物エシックス研究の視座から

ロバート・M・ヴィーチ 掛江直子 (訳)

